

科目名	運動学演習						
科目名(英)	Seminar for Kinesiology						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	大内田 由美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院において 作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	運動器の構造と機能の関係を理解し、実際の運動を理解する。 正常な運動からの逸脱として運動器疾患によって出現する障害を理解する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			関節の運動を関節包内運動やバイオメカニクスの知識を用いて説明できる。		
	○	○			運動器疾患で見られる典型的な症状を正常な運動と比較し説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)中村隆一,齋藤宏:基礎運動学. 医歯薬出版株式会社 2)佐藤達夫:あたらしい人体解剖学アトラス. メディカル・サイエンス・インターナショナル 3)嶋田智明・平田総一郎 監訳:筋骨格系のキネシオロジー. 医歯薬出版.2012. 4)長谷公隆 編著:運動学習理論に基づくリハビリテーションの実践. 医歯薬出版. 2016 5)配布資料 参考文献:1)I A Kapandji(荻島秀男監訳):カバンディ関節の生理学. 医歯薬出版. 1999.						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	頸部・体幹の構造と運動(関節の構造、靭帯) 頸部・体幹の構造と運動(頸部体幹に作用する筋)			基礎運動学と配布資料を使用し復習		
	2	頸部・体幹の構造と運動(頸部体幹に作用する筋) 頸部・体幹の構造と運動(臨床運動学)			復習テストの実施		
	3	頸部・体幹の構造と運動(臨床運動学) 股関節の構造と運動(関節の構造、靭帯)			Webテストの実施		
	4	股関節の構造と運動(股関節に作用する筋)			基礎運動学と配布資料を使用し復習		
	5	股関節の構造と運動(臨床運動学)			復習テストの実施 Webテストの実施		
	6	膝関節の構造と運動(関節・関節半月の構造、靭帯) 膝関節の構造と運動(膝関節に作用する筋)			基礎運動学と配布資料を使用し復習		
	7	膝関節の構造と運動(膝関節に作用する筋) 膝関節の構造と運動(臨床運動学)			復習テストの実施		
	8	膝関節の構造と運動(臨床運動学) 足関節・足部の構造と運動(関節の構造、靭帯)			Webテストの実施		
	9	足関節・足部の構造と運動(足関節・足部に作用する筋) 足関節・足部の構造と運動(足関節・足部に作用する筋・アーチ)			基礎運動学と配布資料を使用し復習		
	10	足関節・足部の構造と運動(臨床運動学)			復習テストの実施 Webテストの実施		
	11	歩行(歩行周期、重心の変化) 歩行(各関節の角度変化、エネルギー効率の良い歩行の決定因)			基礎運動学と配布資料を使用し復習		
	12	歩行(床反力、歩行時の筋活動) 歩行(歩行の評価)			基礎運動学と配布資料を使用し復習		
	13	歩行(異常歩行) 運動学習(運動能力とは、学習の転移)			復習テストの実施 Webテストの実施		
	14	運動学習(運動パフォーマンス、動機付け) 運動学習(運動学習理論、フィードバック)			復習テストの実施 Webテストの実施		
	15	全体のまとめ			Webテストの実施		
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎					20%
履修上の注意							

科目名	整形外科学 I						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	九州大学整形外科教室		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	整形外科領域の疾患・治療法を理解する。 ・作業療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。・作業療法が関わる障害が、どのような疾患から起因するかを知る。・整形外科疾患の成り立ちを知り、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。・整形外科疾患の症状を理解することで、作業療法治療上でのリスク管理を理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				作業療法に必要な医学情報、病気の成り立ちを説明できる。	
	○	○				整形外科疾患から起因する、作業療法が関わる障害について説明できる。	
	○	○				整形外科疾患の生理学的見解ができる。	
	○	○				作業療法領域に多い、整形外科疾患の症状を説明することができる。	
○	○				作業療法の治療上での各疾患ごとのリスク管理を説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:標準理学療法学 作業療法学 専門基礎分野 標準整形外科学 (医学書院) 標準整形外科学 (Standard Textbook) (医学書院)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 整形外科基礎知識			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	2	第2章 運動器の評価及び検査法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	3	第3章 整形外科的治療法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	4	第4章 炎症性疾患(1)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	5	第4章 炎症性疾患(2)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	6	第5章 代謝・内分泌性疾患・退行性疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	7	第6章 先天性骨関節疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	8	第7章 循環障害と壊死性疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	9	第8章 骨・軟部腫瘍			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	10	第9章 神経・筋疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	11	第10章 脊椎の疾患(1)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	12	第10章 脊椎の疾患(2)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	13	まとめ			これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。		
	14	まとめ			これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。		
15	まとめ			これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	内科学 I						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	安藤 廣美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・内科疾患の症状を理解することで、治療上でのリスク管理を理解する。 ・作業療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。 ・内科疾患の成り立ちを知ることで、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				理学療法士が関わる内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○		○		理学療法の中で内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 参考文献:私が投稿し掲載された医学に関する諸文章						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	序説・第1章 内科学の概念 内科的診断			生理学教科書も併せて予習しておく。		
	2	第2章診断学 内科的診断の意義と目的 診察・検査			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	第3章症候学 発熱・食思不振・悪心・易感染性・意識障害			まとめプリントを使用して復習しておくこと。		
	4	第3章症候学 めまい・浮腫・頭痛・ショック			まとめプリントを使用して復習しておくこと。		
	5	第4章循環器 総論・検査			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	6	第4章循環器 心筋・弁・中隔・心不全			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。		
	7	第4章循環器 不整脈・末梢血管			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。		
	8	第5章呼吸器 総論・検査			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。		
	9	第5章呼吸器 COPD・間質性肺炎			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。		
	10	第5章呼吸器 癌・循環・横隔膜			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。		
	11	第6章消化器 総論・検査・食道			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	第6章消化器 胃・切除胃・腸			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	第7章肝胆脾 解剖・生理・腹膜・検査			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	第7章肝胆脾 肝炎・肝硬変・膵胆道・腹膜			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	神経内科学 I						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	片伯部 裕次郎		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法が関わる障がいがあるが、どのような疾患から起因するかを知る。 ・神経内科疾患の成り立ちを知ることで、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・神経内科疾患の症状を理解することで、作業療法治療上でのリスク管理を理解する。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				神経内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				神経内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				神経内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				作業療法士が関わる神経内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○		○		作業療法の中で神経内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院:標準理学療法学・作業療法学 ~専門基礎分野~ 神経内科学(補助教科書)PT,OT基礎から学ぶ神経内科学ノート:医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	リハの総論。神経内科におけるリハビリ評価方法。			教科書で予習しておく。		
	2	神経内科に必要な生理、病理、解剖学			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	脳XII神経(前編)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	4	脳XII神経(後編)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	5	神経内科の検査方法。筋電図、筋生検、CT、MRIなど			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	6	意識障害、記憶			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	7	筋の萎縮、錐体路症状、中枢性麻痺と末梢性麻痺			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	8	錐体外路と不随意運動			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	9	失調症の検査と診断			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	10	高次脳機能障害1(失認、失語、失行)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	11	高次脳機能障害2(失認、失語、失行)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	嚥下機能、気管切開、胃ろう			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	まとめ①(1回~6回)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	まとめ①(7回~12回)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
15	総まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	精神医学 I						
科目名(英)	Psychiatry I						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	石井 洋平		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	精神科リハビリテーションの実施に際し、精神障害者の理解を深めるために機能障害としての精神症状や、それをもたらす精神疾患の成因や診断、治療について理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				精神症状について説明できる。	
	○	○				精神疾患の成因について説明できる。	
	○	○				精神疾患の診断と治療について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:標準理理学療法学 作業療法学 基礎分野 精神医学:医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	精神医学の歴史 本邦と諸外国の歴史および関連科学の発展との関連			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	2	三大精神病と三つの成因 精神病の成因と分類			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	3	精神機能の評価(1)精神医学的診断法について			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	4	精神機能の評価(2) 身体的検査法、心理的検査法の概念			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	5	統合失調症(1)精神症状と社会生活上における制限の特徴			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	6	統合失調症(2)病型と診断基準			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	7	統合失調症(3)治療法とリハビリテーション			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	8	うつ病(1)気分障害の概念と病型分類			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	9	うつ病(2)症状、経過の特徴、誘因・病因と発症機制			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	10	うつ病(3)治療と援助について			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	11	神経症(1)神経症の種類とそれぞれの臨床的特徴			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	12	神経症(2)治療と援助について			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	13	摂食障害・行動の問題・性の障害			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	14	これまでのまとめ			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	保健医療福祉制度論						
科目名(英)	Medical welfare System						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	仲野 悟		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	医療と福祉の制度について学習し、作業療法士として各制度に対する知識を持つことの有用性を理解してもらおう。また、これから変化していく各制度の情報に耳を傾け、自ら学習していくといった意識をもってもらいたい。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				リハビリテーションの診療報酬など作業療法士に関係する医療保険制度を説明できる	
	○	○				障害者手帳や障害者総合支援法に規定されるサービスを述べることができる	
	○	○				地域包括ケアシステムを説明できる	
	○	○				介護保険に規定されるサービスを述べることができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:保険と年金の動向 財団法人 厚生統計協会 国民の福祉の動向 財団法人 厚生統計協会 参考文献:「厚生労働省ホームページ」(http://www.mhlw.go.jp/)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業の概要			配布資料を使用し復習		
	2	医療保険制度(医療保険の仕組み、保険診療のルール、リハビリテーション料の算定方法)			配布資料を使用し復習		
	3	医療保険制度(医療保険の仕組み、保険診療のルール、リハビリテーション料の算定方法)			配布資料を使用し復習		
	4	リハビリテーション診療報酬			配布資料を使用し復習		
	5	高齢者福祉(介護保険制度、後期高齢者医療制度)			配布資料を使用し復習		
	6	高齢者福祉(介護保険制度、後期高齢者医療制度)			配布資料を使用し復習		
	7	高齢者福祉(介護保険制度、後期高齢者医療制度)			配布資料を使用し復習		
	8	高齢者福祉(介護保険制度、後期高齢者医療制度)			配布資料を使用し復習		
	9	リハビリテーション介護報酬			配布資料を使用し復習		
	10	リハビリテーション介護報酬			配布資料を使用し復習		
	11	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)			配布資料を使用し復習		
	12	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)			配布資料を使用し復習		
	13	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)			配布資料を使用し復習		
	14	年金制度			配布資料を使用し復習		
15	まとめ			配布資料を使用し復習			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	基礎作業学実習 I						
科目名(英)	Occupation Based Overview I						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	脇元 啓行		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	1. 作業療法で用いる様々な作業の、基本的な知識と技術を習得する。2. 各作業を遂行する上で必要な、身体的および心理的機能を理解する。3. 各作業を遂行する上での、周囲の人的および物理的環境との関係を理解する。4. グループワークを通して、自分自身についての理解を深める。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○		作業療法で用いる様々な作業の、基本的な知識と技術について説明できる。	
	○	○	○	○		各作業を遂行する上で必要な、身体的および心理的機能を説明できる。	
	○	○		○		各作業を遂行する上での、周囲の人的および物理的環境との関係を説明できる。	
	○	○		○		グループワークを通して、自分自身についての理解を深める。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:長崎重信 監修:作業学改訂第2版, 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業学, メジカルビュー社, 2015. 中村春基, 他編:レクリエーション改訂第2版, 社会参加を促す治療的レクリエーション三輪書店, 2004 参考文献:吉川ひろみ:「作業」ってなんだろう 作業科学入門, 医歯薬出版, 2008, 日本作業療法協会編集:作業—その治療的応用改訂第2版, 協同医書出版2003						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション、紙細工(講義およびグループワーク)			レポート作成(紙細工)		
	2	紙細工(グループワーク)、タイルモザイク(グループワーク)			レポート作成(紙細工)		
	3	タイルモザイク(グループワーク)			レポート作成(タイルモザイク)		
	4	タイルモザイク(グループワーク)、マクラメ(グループワーク)			レポート作成(タイルモザイク・マクラメ)		
	5	マクラメ(グループワーク)			レポート作成(マクラメ)		
	6	革細工(講義およびグループワーク)			レポート作成(マクラメ・革細工)		
	7	革細工(グループワーク)			レポート作成(革細工)		
	8	エコクラフト(講義およびグループワーク)			レポート作成(革細工・エコクラフト)		
	9	エコクラフト(グループワーク)、今までのまとめ			レポート作成(エコクラフト)		
	10	レクリエーション(講義・グループワーク)			レクリエーション発表準備		
	11	レクリエーション(グループワーク)			レクリエーション発表準備		
	12	レクリエーション(グループワーク)			レクリエーション発表準備		
	13	レクリエーション(グループワーク)、レクリエーション(発表)			レクリエーション発表準備		
	14	レクリエーション(発表)			レポート作成		
	15	全体のまとめ			レポート作成		
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				40%
	実習レポート	◎	◎	◎	◎		60%
履修上の注意	授業の内容の順番は変更する場合があります。						